

令和6年度第2回第19回立川市史編さん委員会議 会議録（要旨）HP公開用

開催日時 令和7年3月28日（金） 午後3時から5時
開催場所 たましんR I SURU（リスル）ホール 第2会議室
出席者 [委員]（◎委員長、○副委員長、50音順、敬称略）
大友一雄 小林尚子 ◎白井哲哉 杉浦早苗 鈴木功 豊泉喜一
○檜崎茂爾 保坂一房 和田哲
[事務局] 産業文化スポーツ部長：井上隆一 市史編さん室長：齋藤安則
令和7年度後任市史編さん室長：白井貴幸 市史編さん係長：新藤博
職員：鳥越多工摩 朝比奈新 武田真幸 高野宏峰 渡邊皓太郎 鈴木啓太
山下祐香理
[傍聴者]なし

<資料一覧>

- ・資料1 専門部会活動報告及び活動予定について
- ・資料2 令和6年度新編立川市史の刊行について
- ・資料3 令和7年度市史編さん事業予算について
- ・資料4 講座「新編立川市史の古文書を読む」について
- ・資料5 市史編さん広報紙「たちかわ物語」計画表について
- ・資料6 新編立川市史刊行計画について
- ・資料7 新編立川市史本編（通史）執筆要綱（案）について
- ・資料8 立川市史デジタルテクノロジー活用方針について

<あいさつ>

産業文化スポーツ部長、市史編さん室長、令和7年度後任：市史編さん室長、委員長、事務局職員
※会議は原則公開とする。

<議題>

1. 新編立川市史刊行計画について（資料6）

事務局より、令和6年度第3回第24回立川市史編さん委員会編集委員会議（令和7年3月19日開催）で挙げられた内容の説明があった。

【主な説明】

- 『本編』を『通史編』という呼び方にするか否か。
(※『通史編』という呼び方について、特に異論は出なかった)
- 『別編』という枠組みも廃止して書籍名を付けてはいいがが。br/>(※『別編』という呼び方はやめることに決定した)
- 『民俗・地誌編』は『通史編』の一部であるという考え方から、『通史編』の下に『民俗・地誌編』を加え、『本編』『別編』という呼び方はしない。
- 『テーマ編』という名称も仮称にしている。

2. 新編立川市史本編（通史）執筆要綱（案）について（資料7）

「新編立川市史本編（通史）執筆要綱（案）」は「新編立川市史通史編執筆要綱（案）」（以下、「執筆要綱案」という）という名称に変更となる。本執筆要綱案について、事務局より以下の説明があった。

- 体裁は「B5サイズで縦書き2段組み」に、ページ構成については原則、見開きごとに写真・表などを付ける。
 - 編目構成について、「編」という名称は使わず「部・章・節・項」を使う。
 - 「吊り見出し」にすることも編集委員会議の中でもたまっている。
 - 「吊り見出し」は10.5ポイントとする。
 - 引用・参考文献の名称は、可能な限り本文中に書き込むか否か。本文中に記した参考文献名も含んで部ごとに巻末にまとめる、という方向性にある。
 - 「出典」について、キャプションには書き込みず、部ごとの巻末にまとめるという方向で調整をしている。
 - 「年次表記」は、「元文元年（1736）」などのように元号を優先させるが、下巻では西暦を優先させる可能性がある。「1945（昭和20）年」と元号が入るが、その方向で調整をしていきたい。
 - 「単位」の表記も整理が必要である。
 - 「奥付」については、発行は「立川市」としたいが、編集は「立川市史編集委員会議」とするか「立川市史編さん委員会」とするかは未定である。
- 以上の説明に対し、委員より質問や意見等があった。

【主な意見・質問】

- (質問) 引用・参考文献の名称を本文に書き込むと、巻末における記入例が本文中に入ってくるということか？
- (回答) 本文中には著者名・論文名のみを文末に付けるなどが考えられる。
- (意見) 「市民の皆さんにどうしたらうまく読んでもらえるか」、それには「どういう記述が良いか」という点から、委員の間でも意見が分かれている状況である。
- (意見) 本文に入れないほうが、読む側は流れに乗って読めるのではないか。
- (意見) 『新編立川市史 資料編 写真集』に付いている年表が有益なので、『通史編』にも年表があると良い」という提案を編集委員会議の検討課題としておくよう、事務局にはお願ひする。
- (意見) 年表を別冊でつくれないようなら、インターネット上で見られるようにつかったのがあると良いと思った。

3. 立川市史デジタルテクノロジー活用方針について（資料8）

事務局より、令和6年度第1回第18回立川市史編さん委員会議（令和6年8月2日開催）での意見や、第3回第24回立川市史編集委員会議（令和7年3月19日開催）での意見を取りまとめた現時点での活用方針案について説明があった。（詳細は別添資料8に記載のため省略）

以上の説明に対し、委員より質問や意見等があった。

【主な質問・意見】

- (意見) この方針案で確定ではなく、さらに次年度も検討していく。
- (意見) 「インターネット上に掲載する」ということを含めての許諾の取り方をしたほうが良い。
- (意見) 例えば市民の方に取材をして、ビデオを制作するのは有効である。ただ、それがインターネット上に掲載されるので、慎重に行わないといけない。資料自体が掲載されると考えて良いのか？
- (回答) まずは刊行物に掲載されている資料である。見る側はテキストを読むので、本文も資料も付いて、できるだけ書籍と同じような形で、できる範囲で掲載したい。他市では、市史だけが掲載されているのではなく、まちや地域、歴史と、いろいろな角度で検索できて、たどり着く資料は同じというように見やすくわかりやすい形になっているので、資料の見せ方もさらに研究したい。
- (意見) デジタルアーカイブのどこから入っても、そこに行き着くという形は大事であり、どのような内容を載せかという精選が重要。一市民として思うのは、やはり見やすくわかりやすいものであってほしい。「デジタル・デバイド（※）」の問題があるので、どこでどのように閲覧できるようにするかを市全体で考えていただきたい。「フ

エイクニュース」というのがたくさんあるので、立川市への誤解を広めることがないよう進めていただきたい。

※デジタル・デバイド…情報通信技術（ICT）を利用できる人とできない人との間に生まれる情報格差。

※フェイクニュース…虚偽の報道。

（意見） デジタルアーカイブの体裁は「横組み」になると思うが、同時に書籍と同じ体裁のものを公開することはとても重要だと思う。

（意見） 『通史編』下巻を刊行すると、ただちにデジタルアーカイブへ公開される。執筆を終えてから修正点などは正直あると思うので、チェックする時間がおそらく必要になってくる。このあたりのスケジュール感ももう少し余裕を持たせたほうが良い。

＜報告＞

1. 専門部会活動報告及び活動予定について（資料1）

事務局（各部会担当者）より、それぞれ報告があった。（詳細は別添資料に記載のため割愛）

2. 令和6年度新編立川市史の刊行について（資料2）

事務局より、『立川市史 資料編』の近代1、現代2の刊行について報告があった。

3. 令和7年度市史編さん事業予算について（資料番号3）

事務局より、報告があった。（詳細は別添資料に記載のため割愛）

4. 講座「新編立川市史の古文書を読む」について（資料4）

事務局より、市民協働「立川の史料を読む会」の周知と参加増を図ることを目的として、令和7年4月18日に開催する講座「『新編立川市史』の古文書を読む」における現時点の応募状況や広報の仕方などについて説明があり、委員からも意見があった。

【主な意見】

（意見） 定員50名に対して応募が15名は決して多い数ではないので、もう少し広報を考えたほうが良い。

（※開催当日は、40名超の方に参加いただくことができた）

（意見） 広報紙に、「古文書読解について、ある程度知識や経験がある方」といったことが書いてあったので、それが縛りになっているのではないか。

（回答） 初心者であっても本講座をきっかけに興味を持っていただくよう間口は広くないといけない。「2時間まったくわからなかった」というのも失礼なので、募集の書き方には悩んだ。講座では、今まで経験がない方でも聞いていただけるような話を心がけたいと思うが、幅広いレベルの方が参加されたときの対応が課題と考えている。

5. 市史編さん広報紙「たちかわ物語」計画表について（資料5）

事務局より、『たちかわ物語』20号（9月19日発行）および今後発行する号に掲載していく主な企画案について説明があった。

【20号について】

■令和7年度上半期の活動報告を掲載する。

■市民協働「立川の史料を読む会」の活動報告を掲載する予定である。

■4ページ展開で、民俗・地誌部会が実施している砂川家の「共有膳椀」の調査について掲載する。

【後続号について】

■22号あたりに『資料編 近世2』の刊行や、砂川家文書調査について載せていく。

■既刊刊行物の書評のような記事を掲載する。

また、委員より主な意見があつた。

(意見) 『たちかわ物語』のバックナンバーの合冊をつくっては?

(意見) 「柴崎古墳群」(沢稻荷)について取り上げたほうが良いと思う。

6. 令和6年度市史編さん関連講演会及び企画展示(写真展)について(資料なし)

事務局より、以下の報告があつた。

■講演会を令和7年3月2日にRISURUホールの小ホールにて行い、73名の参加があつた。

■講演会は例年、多摩郷土史フェアの開催と同日だったが、今回同時開催にはならなかつた。しかし、前年度と同程度の参加者が来場された。

■SNSで周知したことも集客の要因だと思うので、今後もこうした広報の仕方を継続していきたい。

■関連展示については、令和7年2月の終わりの1週間ほど市役所の多目的プラザで写真展を行い、同じ内容で3月に2週間ほどRISURUホールの3階ギャラリーでも行つた。

■「当時の写真と現代の同じ地点で撮った写真の比較ができる非常にわかりやすい」という意見を複数いただき、好評を得た。

■今後も複数の媒体で周知が必要だと感じた。

その他

(意見) 砂川家の膨大な資料について、市史編さん事業が終了した段階でどうなつてしまうのか? 事業終了後も研究ができたり、成果をまとめたりができるような環境をつくっていただきたい。

(回答) 市史がすべて刊行できたあとに砂川家の資料をどう残していくのかについては、引き続き議論を進めたい。

<終了 午後5時00分>